

# 発達障害行動チェックリスト

宮 立命 (静岡市)

## ■幼少期

- 1, 手を振って「バイバイ」する時に、手のひらを自分に向ける。
- 2, 言葉を話すのが遅かった、話し掛けられるとオウム返しする復唱や独り言が多い。
- 3, 皆が見たり指さすものへの関心を示さない、呼び掛けられても気が付かない。
- 4, 幼い子供は親の顔を見ることが多いが、それが少ない。親のことを気にしないで遊びに集中する。
- 5, 話すようになって、大人びたような話し方、変に丁寧な話し方をする。
- 6, 表情、身振りなど身体を使った表現が出来ない。
- 7, 冗談や話の文脈を理解し難く、結果的に「空気が読めない」という特徴が有る。
- 8, 孤立、受動的など一方的な関わり方を周囲とする。他の子供と明らかに様子が異なる。
- 9, 発語するようになって、数カ月後には話さない、1～2年後に再び話すようになる。
- 10, 遊びなど同じことを好む、毎日が同じ繰り返しになる。
- 11, 未知の遊び、場所、人物に抵抗を示す。
- 12, 電車や虫、数字、記号、物など特定の物事に強く興味を示す。興味の範囲が狭い。
- 13, 小学生程度でも図鑑にはまり、昆虫や出来事などの事実を機械的に記憶するのに優れている。
- 14, 好きなことには優れた結果を出す。そうでないことには全く成果が出ない。得意不得意が極端。
- 15, 手順を変えられない。決まった通りに毎回する。手順を変えられると戸惑ってしまう。
- 16, 決まった規則や手順があると守れるが、守ることに拘りすぎて周囲と衝突しやすい。
- 17, 好きなことへの情熱が強すぎて、その分野で人に負けたりするとパニックになる。
- 18, 常同行動（同じ動作を繰り返す）が有る。[道具をくるくる回すなど]
- 19, 「一番病」が有る。[好きな分野で一番になれないとパニックになる、異常な競争心]
- 20, 自分のやり方やペースを常に最優先にする傾向。
- 21, 話せるようになっても言葉に出さない。  
(欲しいものが有っても言葉に出さずに、お母さんの腕を引いて、その場所に連れて行くだけ)
- 22, 感覚異常  
(洋服の生地や縫い目、タグを嫌がる。触られるのを嫌がる。抱きしめられるのを嫌がる)  
(手をつなぐのを嫌がる、顔を近づけられるのを嫌がる)  
(怪我をしても痛がらない、蚊に刺されても平気、血が出ていても平気)  
(爪切りを嫌がる、散髪を嫌がる、歯磨きを嫌がる、帽子を被りたがらない、靴下を嫌がるなど)
- 23, 味覚異常、嗅覚異常（好き嫌いが多く、普通の臭いで気分が悪くなる、香水で気分が悪くなる）
- 24, 独りになっても、迷子になっても泣かない。  
(親から勝手に離れて迷子になる、直ぐに何処かに出ていってしまう)  
(興味の有るものを見付けると衝動的に走っていってしまう)
- 25, 同時に複数のことが出来ない。  
(先生の話聴きながら、ノートをとる、黒板の文字をノートする事が出来ない)  
(体操やダンス、踊りが苦手、出来ない)
- 26, 運動会、学芸会、文化祭が嫌い（時間割が変更されるため、普段と違うことへ対応出来ない）

- 27, 片付けない、整理しない（物の配置が変わったりすると違和感が生じるため）
- 28, 机の上の物に触れられるのを極端に嫌がる。  
（物の配置が変わるから、普段と違う状態を嫌がるから、変化について行かれないから）
- 29, 変化が苦手。  
（食事になっても遊びが止められない、気持ちを変えられないから→こだわり）  
（無理やり止めさせると、爪を噛む、不眠、怒り、自傷行為などへ発展）  
（手順通りに出来ないと、最初からやり直す場面も）
- 30, 睡眠リズムの不安定  
（お母さんの腕の中の時は寝る。チャイルドシートの中では寝る。車に乗ってれば寝る。コタツなら寝る。→布団に寝かせようとすると直ぐに起きて泣き出す）
- 31, 感情表現が苦手なので我慢の限界に達して、急に怒り出したり、ふさぎ込んだりする。
- 32, 表現が直接的なので相手の欠点を口にしてしまう。思ったことを口にしてしまう。
- 33, 昔の事を昨日のように話す。時間の概念が困難。時間配分が下手、出来ない。
- 34, 選択に迷いやすく、些細なことでも決められず迷い続ける。決めた後でも頻繁に選択し直す。
- 35, 「いつも同じであって欲しい」という思いが有るので、変化が起こると大きな不安につながる。
- 36, 動作がぎこちない、不器用→身体をよく家具などにぶつける。些細な怪我が多い。  
（服の着脱が下手、時間が掛る）
- 37, 椅子や机に向かう姿勢が悪い、頬杖、寝そべる→身体バランスの悪さ。（怠け者と思われてしまう）
- 38, 衝動的→話が終わらない内に返事をしてしまう、話の腰を折る、人の話を取ってしまう、よく考えないで失敗する、事故に遭いやすい、怪我が多い、食器や物を落とす。
- 39, 物を無くしやすい、置き忘れが多い、忘れ物が多い→物事の順序を考えるのが苦手。
- 40, 跳び箱が出来ない。鉄棒が出来ない。縄跳びが出来ない。手足を同時に旨く使えない。
- 41, 叱られていても平気。厳粛な場面でも騒ぐ笑う。

次のページには思春期の頃のチェックシートがあります。

## ■思春期以降

- 1, 冗談を本気にしてしまう。社交辞令を本気にしてしまう。(親しくなると空気が読めない場面が出る)
- 2, ジックリ話していると、話し過ぎたりする。話す時の表情、仕草、口調、敬語などが不自然。
- 3, 会話や友達付き合いで、周りの人の反感を買ってしまうことが多い。
- 4, 白黒をハッキリさせたがる。曖昧な表現、曖昧な状態を理解できない。そういう事を嫌がる。
- 5, 相手の表情から気持ちを汲み取ることが出来ない。ハッキリ言葉で云われないと分からない。
- 6, 人情よりも理屈を元に考えがち。(無礼な言動、目上の人への配慮が出来ない)
- 7, 曖昧な情報を直感的、瞬間的に理解するのは苦手。
- 8, こだわりの対象が変わると、以前のこだわりの対象は減ってゆく。
- 9, 成長につれて、こだわりの対象は変わることがある。(こだわりの対象が趣味に変わる場合も)
- 10, 人に対するこだわりが起こる場合もある(同じ趣味の仲間との異常な競争心、何でも比べる)
- 11, ライバルに勝つことにこだわり、他のことが疎かになってしまう。
- 12, 幼少期は特定の玩具や遊びに拘るが、成長と共に行動や考え方への拘りに変わる。
- 13, こだわりは全体像ではなく部分へのこだわりとなる。(木を見て森を見ず)
- 14, わずかな物音が気になり嫌がる。聴覚過敏。(すべての音が耳に入り会話が聞こえにくく成る)
- 15, 光に敏感になり、明るい所、場所が苦手に成る。視覚過敏。(明るい光、場所で物が見えにくい)
- 16, 動作がぎこちない(細かい作業や大きな動作が苦手。原因は14, 15の可能性も)
- 17, 16とは逆に細かい作業や大きな動作が人よりも得意に成る場合も。
- 18, 過去(幼少期)の辛い体験が積み重なると、苦手意識が更に強まる。
- 19, 聴覚過敏、視覚過敏を本人は自覚しにくい。(自分の感覚が標準になっている)
- 20, 感覚異常の自覚が無いために、周囲からは「忍耐力の問題」と思われ、自分を責めてしまう。
- 21, 過去を覚えるのが得意(幼少期や昔の出来事をリアルに記憶、数字記号などの記憶が得意)
- 22, 大好きな知識は複雑なものでも簡単に記憶できる。(大人顔負けのことも、電車博士など)
- 23, 忘れたいことも忘れられない(嫌な事も忘れられず、幼少期の嫌な思い出が成人してもトラウマに)
- 24, 嫌な思い出が全て蓄えられてしまう。(些細な嫌なことでも積立貯金のように溜まってゆく)
- 25, 24の傾向から人を許せなく成ってしまう。(解決した問題も思い出して相手を責める)
- 26, 過去の出来事を年表のように記憶している。
- 27, 未来の予測は苦手の場合もある。(知識を多く蓄えても予測出来ず、過去を未来に活かさない場合も)  
予想外の事、未体験なことへの対応がまったく出来ない。
- 28, 事実を好み、曖昧なことは嫌う。(白黒ハッキリさせたがる、結論を急ぎたがる)
- 29, 待つことが苦手。直ぐに結論を出したがる。(28の傾向が原因)  
(我慢が出来ない→短気、乱暴、口論)
- 30, 記憶力が優れているが、得意な分野と苦手な分野に分かれる。  
(曖昧なこと、暗黙のルール、抽象的なことを覚えたり、理解することが苦手)
- 31, 想像力に乏しい場合も(曖昧な事が苦手ゆえに、あいまいな未来予測が苦手)
- 32, 言葉や会話の含みが分からない。  
(冗談が通じないで怒り出したり、皮肉を言われて喜んだり、逆に冗談のつもりが不快にさせたり)
- 33, 鍵を掛けたかどうか気になり、何回でも確認しに行く。

- 34, 手洗いで綺麗になったかどうか気になり何回も手を洗い直す。
- 35, 料理が苦手→物事の順序を考えるのが苦手、手先が不器用、曖昧な動作が苦手。
- 40, 問題行動を指摘されると→反抗的になり暴力に訴える場合。悲観的になり常にマイナス思考の場合。
- 41, 字が極端に下手。大き過ぎる文字、小さ過ぎる文字。個性的な文字。
- 42, 話が苦手。順序だって言葉を並べられない。
- 43, 算数が苦手、計算が苦手、空間把握（見えない部分のイメージ）が苦手。
- 44, ボタンやファスナーをとめたりが旨く出来ない。
- 45, ハサミが旨く使えない。鉛筆の持ち方が下手。
- 46, 箸が使えない。食事の時にこぼす。
- 47, 踊りやダンスが覚えられない。真似も出来ない。ロボットみたいな動作に成る。
- 48, 初対面の人にも過剰に気安く接してしまう。
- 49, 嘘をついてはいけないと教えられると、必要な嘘も付けなく成り対人関係で苦勞する。  
(本当の事を言って相手を悲しませる事より、事実を伝えようとする気持ちが優先してしまう)
- 50, コレクションが好き（特定の物を置き場所が無いくらいに、集めたり買ったりします)
- 51, 同じ動作を繰り返す。

## ■社会性の違い

### > 孤立型

呼び掛けに答えない、一人遊びや独りが好き。幼少期に多いが成長と共に受け身型、積極型に移行することも。

### > 受け身型

誘われれば一緒に遊び、従順なために自閉スペクトラム症が分からない。周囲から無理な要求をされても断ることが出来ないので、損な役割を負うことが多くなり、大きなストレスを積み重ねてしまい、健康を害したり、自虐的に成りやすい。

### > 積極型

積極的に他人に関わろうとするために、物怖じせずに人懐っこい半面、失礼な事を言ったり、一方的に話したり、質問を繰り返したりしやすい。